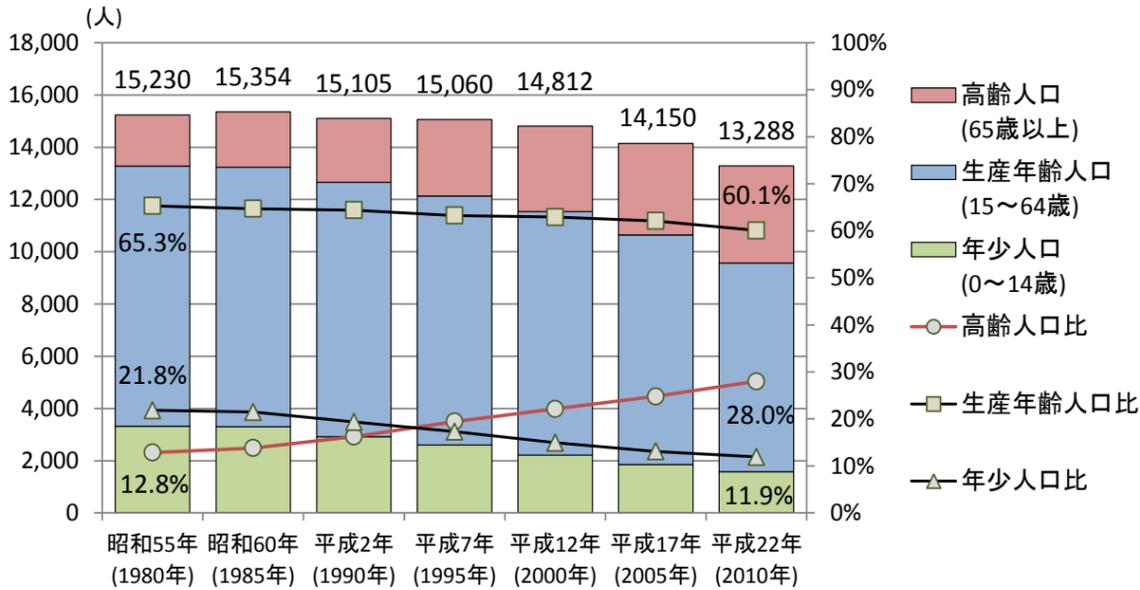


# 市川町人口ビジョン ー概要版ー

## 市川町人口ビジョン

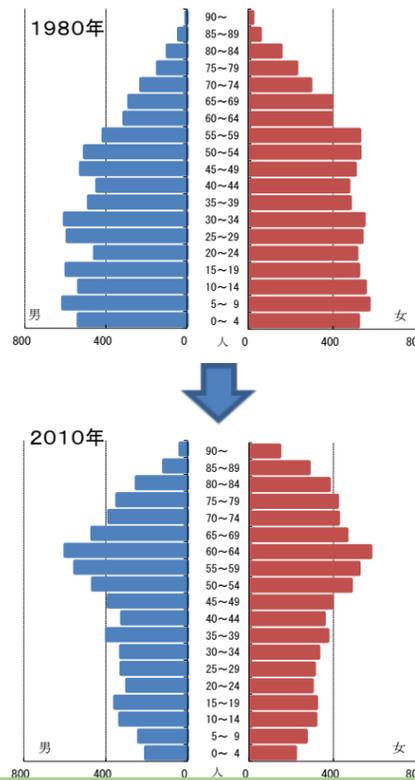
### ▼市川町の総人口の推移

市川町の総人口は昭和60年に15,354人となっていました。その後は減少傾向に転じ、平成22年には13,288人にまで減少しています。平成7年からは年少人口比と高齢人口比が逆転して高齢人口比が上回るかたちとなり、少子高齢化がますます進行しています。



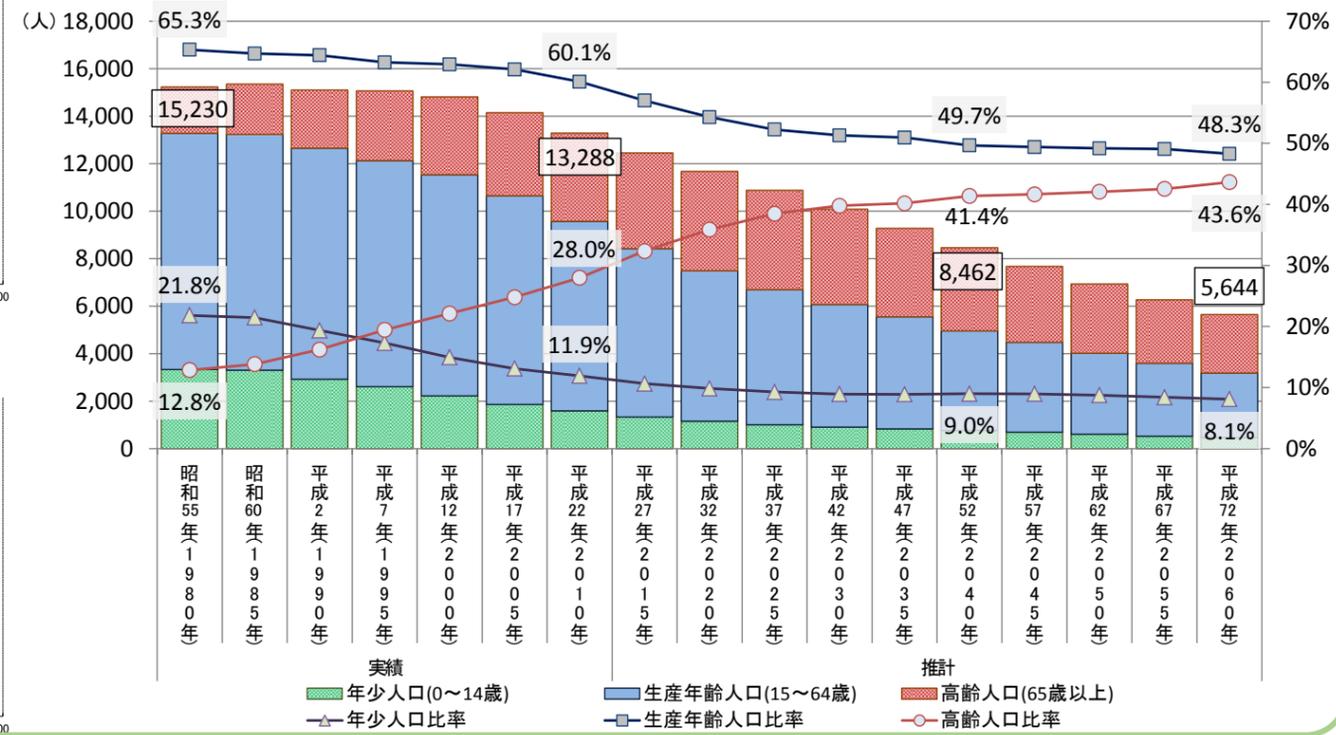
### ▼市川町の性・年齢別人口構成の変遷

1980年は「つりがね型」で安定。2010年は少子高齢化が進行した「つぼ型」になっています。



### ▼社人研(国立社会保障・人口問題研究所)による将来推計

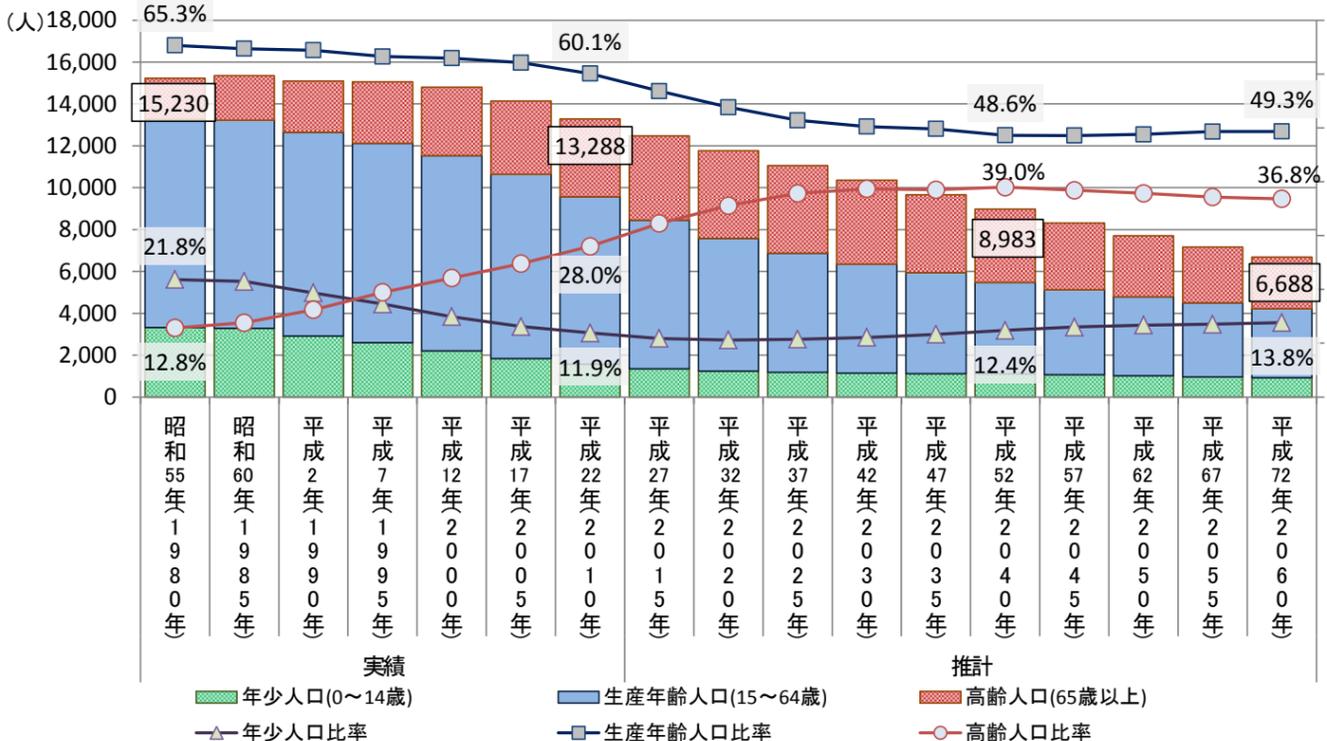
国立社会保障人口問題研究所の試算によると、市川町の人口は減少傾向に歯止めがかからず、平成52年には8,462人、平成72年には5,644人にまで減少する推計となっています。今後、人口減少に歯止めがかからず、生産年齢人口が減少すれば、将来、地域コミュニティが維持できなくなることが予測されます。



## 人口の将来展望

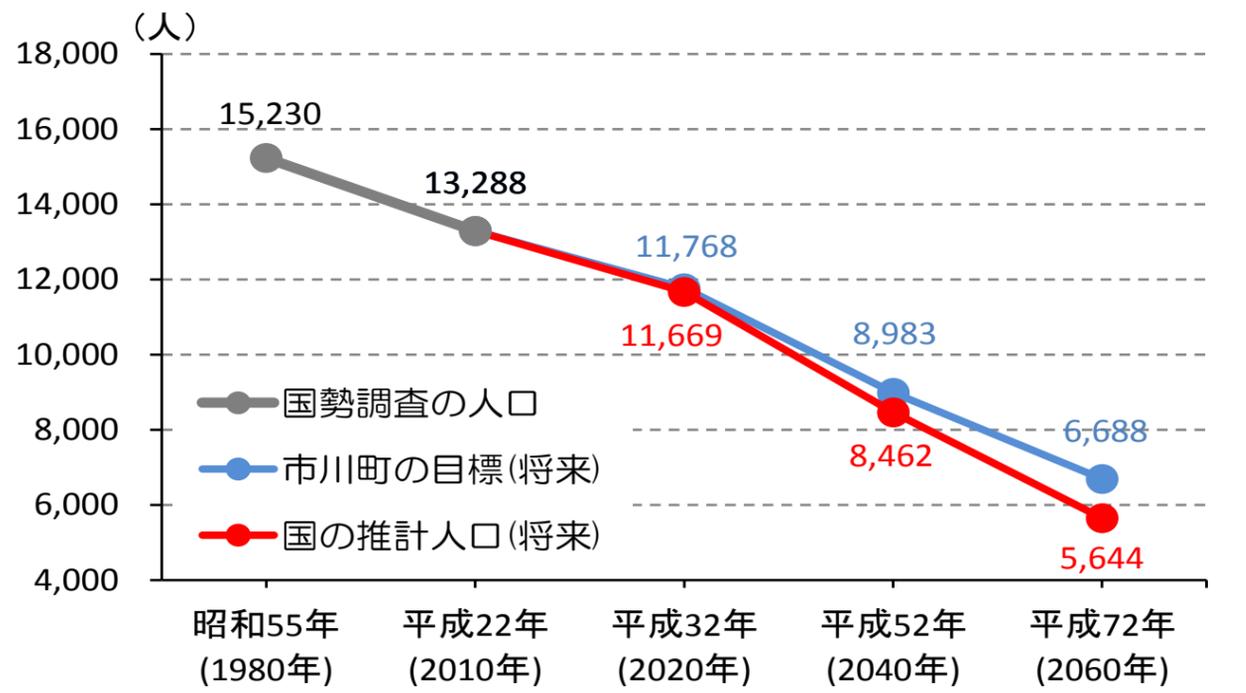
### ▼将来人口の目標

今後、市川町が結婚・出産・子育てまでの切れ目のない支援や地域産業の活性化事業などの施策を展開することで、出生率が平成52年に1.80(国民希望出生率)、平成72年に2.00(兵庫県の目標値)となった場合、平成72年の市川町の人口は6,688人と想定され、この数値を目標とします。



### ▼「市川町人口ビジョン」が示す中長期展望

市川町の人口の将来展望は、取り組むべき人口減少抑制施策などを確実に実施し、年少人口比率を引き上げ、年齢構成バランスを改善させることで、国の推計と比較して平成52年時点で約500人、平成72年時点で約1,000人の増加が見込まれます。

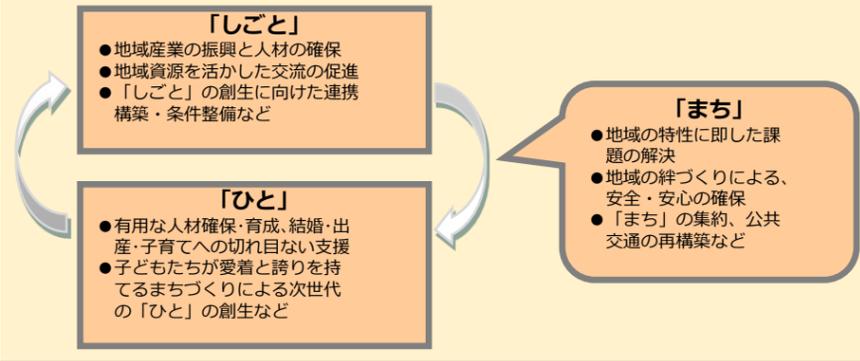


# 市川町まち・ひと・しごと創生 総合戦略の概要 ～住民の絆を大切に 元気で輝き誇れる“いちかわ”を目指して～

## 基本的な考え方

◆本総合戦略は、人口減少の抑制と地域経済の縮小にかかる課題を克服するものであり、長期的には市川町にとって最適な「しごと」を生み出すことで「ひと」が集まり、その「ひと」が「しごと」をつくり、安心して暮らせる「まち」を創生していく好循環をつくるという流れを確かなものにするためのものです。

### 「しごと」と「ひと」の好循環、それを支える「まち」の活性化



## 計画期間

◆「市川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の期間は平成27(2015)年度～平成31(2019)年度の5年間とします。

## 総合戦略の策定の経過

- ◆第1～6回「市川町まち・ひと・しごと創生本部会議」開催
- ◆第1～5回「市川町総合戦略会議」開催
- ◆第1～4回「庁内専門部会」開催
- ◆「市川町全議員説明会」開催
- ◆「地方創生等に関する住民・青年・転出者アンケート」実施

## 総合戦略の推進体制等

◆「市川町人口ビジョン」が示す人口・経済の中期的展望を踏まえ、政策の「基本目標」を明確に設定し、それに基づく適切な施策を内容とする「政策パッケージ」を提示するとともに、政策の進捗状況について重要業績評価(KPI)で検証し、改善する仕組み(PDCAサイクル)を確立していきます。

検証にあたっては、町だけでなく産業界・行政機関・学会・金融機関・労働関係・メディア・住民代表などの各代表者からなる推進会議で意見をいただきながら効果的に施策ができるよう努めます。また、必要に応じて総合戦略を改訂するという一連のプロセスを実行していきます。

## 4つの「基本目標」

◆「市川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、市川町の実情に合わせた基本目標と、主な施策と取り組みを次のように設定します。

## 基本目標① 市川町における地域産業の振興と「しごと」の創出

町内新規就業者数(施策実施に伴う新規就業者)：5年間で50人

### ①地場産業の販路拡大、地域ブランド力強化による一体感の醸成

◆ゴルフクラブ製造業者と連携した商品開発、イベント開催など

### ②特産品の販路拡大、地域ブランド力強化の推進

◆観光交流センターを拠点とした開発・販路拡大・PR支援事業ほか

### ③起業、創業の拡大推進

◆町、商工会、地元金融機関の連携強化による創業支援事業

### ④地元商店売上拡大、活性化支援

◆ふるさと納税の推進ほか

### ⑤農林業を担う人材・経営体の育成

- ◆新規就農者支援事業
- ◆農業経営の強化、農業法人の育成(誘致)
- ◆農業体験イベント・教室等の開催

### ⑥農林業の経営基盤の強化

- ◆6次産業化(農業などの第一次産業が食品加工・流通販売にも業務展開している経営形態)の取り組みの推進
- ◆農業振興地域整備計画の見直し
- ◆ほ場整備の推進
- ◆「オーガニックタウン」を目指し、有機農業や産業の支援

## 基本目標② 市川町への誇り・愛着を生み出し、新しい「ひと」の流れをつくる

社会増減数(転入者から転出者を引いた数)：転出超過人数を年間50人程度にとどめる(H31)

### ①住宅用地の確保

◆町内個人遊休地等も含めた土地の利活用施策を推進

### ②自然環境を活かした暮らしの提案

- ◆空き家、古民家利用施策の推進(改修助成等)
- ◆ホームページの充実(自然環境、住み心地、都市部との交通アクセス等)

### ③若い世代に対する定住促進施策の推進

◆若者向けの住宅取得等の支援

### ④ふるさと意識、郷土愛の醸成

- ◆幼稚園、小中学校など教育現場での地域学習(ふるさと発見)の推進
- ◆町花の「ひまわり」など、のどかな風景を活かした四季の彩り創出
- ◆地域の伝統行事、郷土芸能など、町民の心と地域を結ぶ「地域文化」への支援、PR

## 基本目標③ 若い世代が魅力を感じる子育て環境の実現

合計特殊出生率：1.28(H22)→1.44(H31)

出生数：65人(H26)→75人(H31)

### ①個性的な婚活施策の推進

- ◆外部講師による講座の開催
- ◆個性的な婚活事業の支援・開催

### ②安心して子どもを生み育てる施策の推進

◆母子保健相談事業の強化

### ③安心して子育てができる環境整備

- ◆自然環境などを活かした遊具等の整備
- ◆特色のある保育の推進
- ◆子育て支援環境の整備(こども園新設、子育て支援センターなど)

### ④仕事と家庭生活との両立支援

- ◆学童保育内容の見直し、充実
- ◆病後児保育などの推進
- ◆仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現(男女共同参画の推進、子育てと仕事の両立に対する職場理解の促進など)

### ⑤経済的負担の軽減策の推進

- ◆妊婦健康診査・特定不妊治療費・インフルエンザ予防接種等の助成
- ◆多子世帯支援事業(保育所等施設利用負担金軽減事業など)
- ◆乳幼児・こども医療費助成事業(中学3年生まで無料化の継続、所得制限の撤廃)

## 基本目標④ 時代に合った地域をつくり、安心して暮らせる「まち」づくり

住民アンケートで「市川町のことが好き」と答えた住民の割合：48%(H27)→60%(H31)

### ①地域交流活動の促進

- ◆時代に合った田舎の慣習の見直し(古くからの慣習を活かしたまちづくり)
- ◆まちづくり人材育成事業

### ②公共交通機関の整備

- ◆公共交通機関の充実を図る
- ◆駅施設の環境改善(甘地・鶴居駅)

### ③健康長寿社会の実現

◆住宅リフォーム(バリアフリーに係るもの)への支援

### ④生活環境の改善

- ◆生活道路網の改善
- ◆美しいまち並みの形成
- ◆下水道事業の推進

### ⑤公共施設ストックマネジメントの強化

◆人口減少を見据えた公共施設の最適配置の検討(公共施設等総合管理計画の策定)

### ⑥連携中枢都市圏の連携推進

- ◆近隣市町との連携による公共交通の拡大
- ◆観光交流、防災、医療などの連携による地域活性化